

ヒアリのカーストごとの形態

1 はじめに

ヒアリ (*Solenopsis invicta*) は他のアリ類と同様に社会生活を営み、女王アリ、雄アリ、働きアリの3つのカーストを持ちます。この資料では、ヒアリのカーストごとの形態を紹介します。なお、これらのサンプルは巣から直接採取された個体と考えられ、女王アリ、雄アリは未成熟個体です。また、アルコール液浸標本でもありますので、働きアリなども退色しています。ご注意ください。成熟した雄アリは黒色です。これらの詳細な比較観察には実体顕微鏡が必要となります。



ヒアリの各カースト

(左上：雄アリ、右上：女王アリ、左下：大型働きアリ、右下：小型働きアリ)

2 形態

2.1 女王アリと雄アリ

女王アリと雄アリは翅^{はね}を持ち、働きアリに比べて複眼が大きく、頭部てっぺんには3つの単眼があります。翅があるため、胸部も発達しています。女王アリは腹柄節^{ふくへいせつ}が2節で、前伸腹節刺^{ぜんしんぷくせつし}はなく、触角は11節でこん棒部は2節からなります。雄アリは腹柄節が2節で、前伸腹節刺はなく、触角は12節でこん棒部はありません。女王アリは結婚飛行後、翅を落とし、土にもぐり、巣作りを始めます。雄は、結婚飛行を終えるとすぐに死んでしまいます。



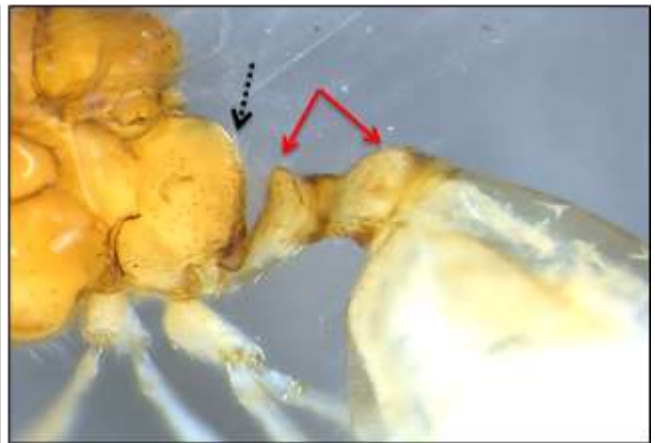
女王アリ



雄アリ



腹柄節は2節で →
前伸腹節刺はない ……→



腹柄節は2節で、前伸腹節刺はない
未熟個体のため腹柄節の盛り上がりは小さめ



女王アリ
触角は11節でこん棒部(→)は2節からなる
雄アリ
触角は12節でこん棒部はない
複眼は働きアリに比べて大きい(---->)
単眼は3つ、単眼の位置(――>)

2.2 働きアリ

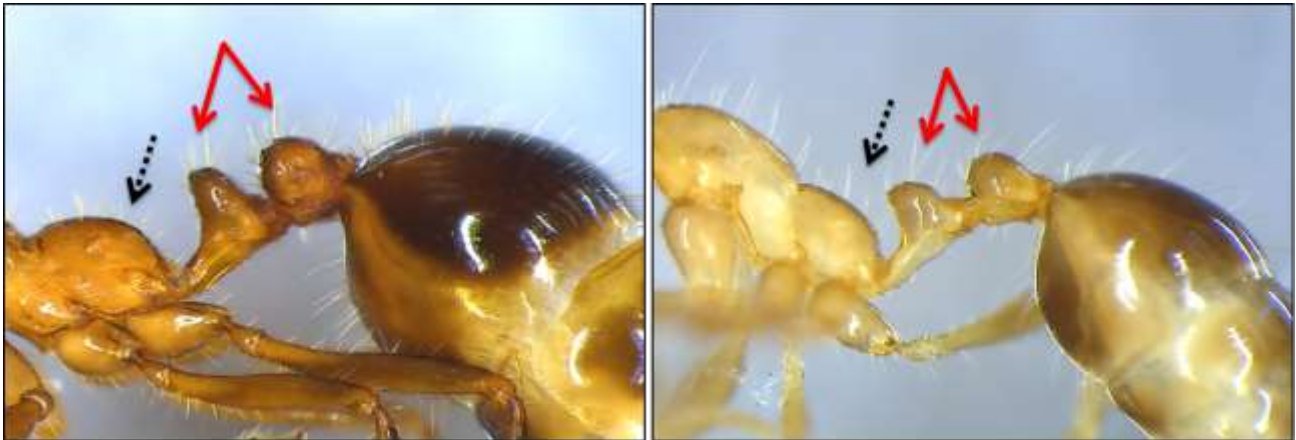
働きアリは体長が 2.5mm から 6.5mm 程度と変化に富んでいて、大型のものを大型働きアリあるいはメジャーワーカー、小型のものを小型働きアリあるいはマイナーワーカーと呼びます。ただし、ヒアリの場合、体サイズの変化は連続的です。働きアリには、翅はなく、単眼もありません。腹柄節は 2 節で、前伸腹節刺はなく、触角は 10 節でこん棒部は 2 節からなります。



大型働きアリ



小型働きアリ



腹柄節は2節で →
前伸腹節刺はない→



触角は10節でこん棒部 (赤矢印) は2節からなる
大型働きアリ

触角は10節でこん棒部 (赤矢印) は2節からなる
小型働きアリ

3 そのほか

写真に使用した個体はすべて九州大学熱帯農学研究センター助教 細石 真吾博士より、分与いただいた、北米産 (S. D. Porter 博士が採取されたもの) です。

ヒアリ類の写真は以下、ホームページに詳細な標本写真と解説がたくさん出ています。

<http://mississippientomologicalmuseum.org.msstate.edu/Researchtaxapages/Formicidaepages/genericpages/Solenopsis.invicta.htm>

http://www.antwiki.org/wiki/Solenopsis_invicta